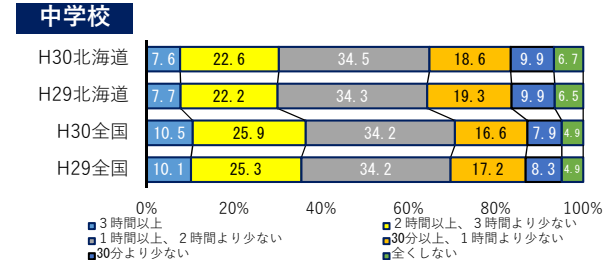
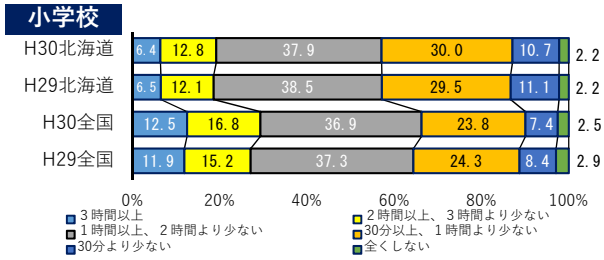


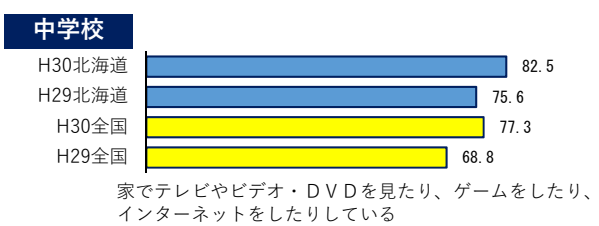
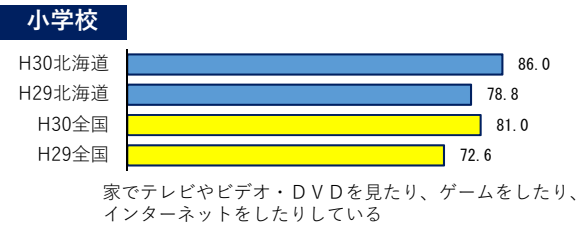
5 望ましい生活習慣の確立

〔分析〕

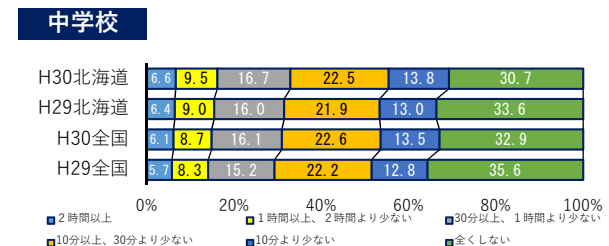
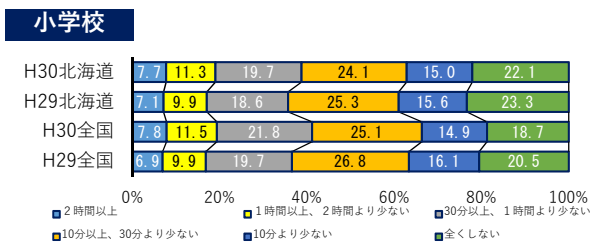
「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む）」（児童生徒質問紙）



「放課後に何をして過ごすことが多いですか」（児童生徒質問紙）



「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」（児童生徒質問紙）



〔成果と課題〕

- 普段、1日当たりの読書の時間が、中学校で全国よりも多い状況が見られるなど、改善が図られてきています。
- 学習習慣の状況では、普段、1日当たりの勉強の時間が、全国よりも少ない状況が見られます。
- 生活習慣の状況では、放課後に、家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている児童生徒の割合が、全国を上回っているなど、望ましい生活習慣が十分に身に付いていない状況が見られます。

〔改善の方向性〕

- ◆ 学校図書館を活用して読書に親しみ、知的好奇心を醸成する開かれた学びの場としての環境として整えられるよう努めることが大切です。
- ◆ 家庭との連携を図りながら、宿題や予習・復習など家庭での学習課題を適切に課したり、発達の段階に応じた学習計画の立て方や学び方を促したりするなど、学習習慣を確立させる取組が大切です。
- ◇ 子どもが自らの学習時間やメディアに触れる時間等について考えるとともに、生活リズムチェックシート等を活用して、主体的に生活習慣の改善に取り組むことができるようにすることが大切です。



◆の改善の方向性に関する事例を紹介しています。 P27

家庭学習アンケートの結果を活用し学校と家庭が連携した取組

ポイント

継続した家庭学習の習慣を確立するために、家庭の協力を得て年3回「家庭学習アンケート」を実施し、学校便りを通じて調査結果と取組成果を共有しています。

「家庭学習に関するアンケート」の結果に基づく取組

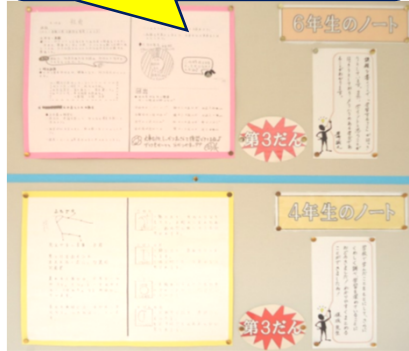
1回目：2月調査後

2回目：5月調査後

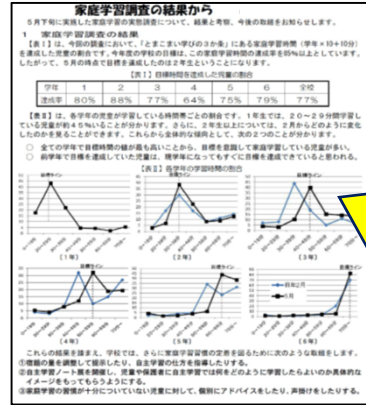
3回目：11月調査

家庭における学習時間やルールづくりについての達成率の目標値を80%から85%に変更

「家庭学習の手引き」の発行や廊下に家庭学習ノートを掲示



家庭学習ノートの掲示



目標値85%を達成

低学年から家庭学習のルールを定着させることが、高学年での家庭学習習慣の確立につながるについて、学校便りを通じて周知

学校便りで周知

アンケートの結果から、保護者と家庭学習のルールを決めている児童ほど目標時間の達成度が高くなることや、低・中学年のうちにルールを定着させることで高学年では自発的な取組が可能になること等を明らかにし、保護者の家庭学習への意識を醸成しながら、家庭での取組を支援しています。

学校図書館を活用し学校と地域が連携した取組

ポイント

日常的に学校図書館を活用し読書に親しませ、主体的な言語活動を展開するとともに、地域の図書館と連携し、子どもたちの生活習慣の改善に結び付ける工夫をしています。

学校

「図書すいせん会」を開こう（小学校第5学年 国語科）

グループごとに推薦する作者を1人決定し、その作者の作品について読み合う。

全体で、新聞、ポスター、ポップ、本の帯紙、パンフレットなどの紹介方法を確認する。

推薦するために必要な文章やキャッチコピー、ポップのデザインなどを紹介ノートから持ち寄り、グループで構成を考える。

日常的に学校図書館を活用した読書活動を継続することにより、推薦する本をスムーズに選ばせることができます。

実際のポップや本の帯紙を参考にさせることで、よりよい紹介方法を工夫させることができます。

子どもが考えたキャッチコピーやポップを学校図書館に掲示することにより、他の学年の読書活動の活性化につながります。

地域

公立図書館との連携

例えば、学校と公立図書館が連携し「ブックフェスティバル」を実施し、図書館司書による読み聞かせやパネルシアターを体験したり、子どもが自由に図書を閲覧したりすることを通して、子どもの読書への興味・関心を高めることができます。このような取組を通じて、子どもが進んで放課後や休日に図書館を利用するなど、主体的に放課後や休日の時間の使い方について考え直す取組へと発展させることができます。